

平成 26 年 5 月 9 日

各 位

会社名	兼松株式会社
代表者	代表取締役社長 下嶋 政幸
(コード番号)	8020 東証1部)
問合せ先	広報・IR室長 渡部佳津子 (電話番号 03-5440-8000)

中期ビジョン「VISION-130」策定について

今般当社は、当社グループ創業 130 周年に向け、2014 年 4 月からの 5 ヶ年を対象とした中期ビジョン「VISION-130」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

当社は、本日の決算短信で発表のとおり、現行中期経営計画の初年度である 2014 年 3 月期において最終年度の定量目標を達成いたしました。また、定量目標がおおむね達成見込みであったため、4 月 7 日において中期経営計画の目標数値を上方修正いたしております。

加えて、重点施策であった復配を実現したこと、また、2015 年 3 月期に創業 125 周年を迎えることにともない、次なるステージに向けた成長シナリオとして当社創業 130 周年までの 5 ヶ年を対象とした中期ビジョン「VISION-130」を策定いたしました。

現中期経営計画の骨子をさらに強化させ、経営基盤の充実を図るとともに、お取引先との共生・発展による収益基盤の拡大を目指して参ります。

当社は、この VISION-130 を「兼松の挑戦」と位置付け、攻めの姿勢をより明確にし、強みとする事業領域を深化させ、新規投資などへのチャレンジを通じてさらなる企業価値の向上を図る所存であります。

その概要につきましては添付資料をご参照ください。

<ご参考 : 兼松の基本理念>

われらの信条

- ・ 伝統的開拓者精神と積極的創意工夫をもって業務にあたり、適正利潤を確保し、企業の発展を図る。
- ・ 会社の健全なる繁栄を通じて、企業の社会的責任を果たし、従業員の福祉を増進する。
- ・ 組織とルールに基づいて行動するとともに、会社を愛する精神と、社内相互の人間理解を基本として、業務を遂行する。

* 業績予想に関する留意事項

本資料に記載されている業績予想ならびに将来に関する記述は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報および合理的な仮定に基づいた推測を前提としております。したがって、実際の業績は様々な要因により本資料に記載されたものと大きく異なる結果となる可能性があることにご留意ください。

以 上

VISION-130 ～「兼松の挑戦」
(2014年4月 ～ 2019年3月)

1. 基本的な考え方

<p>【経営目標】：「健全な財務体質の維持」と「収益基盤の拡大」の両立</p> <p>◆兼松グループの創業130周年に向けて目指すべき姿として、商社の原点、兼松の基本理念に立ち返り、「健全な財務体質の維持」及び、これまでのトレーディングを基盤としたお取引先との共生・発展による「収益基盤の拡大」を経営目標とする。</p> <p>◆経営基盤の充実に取組んだうえで、強みとする事業領域の深化、事業創造としての新規投資などへの「チャレンジ」を通じて、企業価値向上を目指す。</p>
--

2. 具体的な取組みと目指すべき姿

- ◆現行中計の重点施策を踏襲し、「トレーディングの重視」「効率経営の推進」「お取引先との共生・発展」の基本方針の維持、投資リスク管理の高度化を始めとする「経営基盤の充実」を、最重要経営課題とする。
- ◆そのうえで、「グローバルバリューチェーンの構築」を通じて、トレーディングの付加価値の向上・横展開・深掘りを進め、「新技術・新商品の開拓」、積極的な事業投資・M&Aを融合した「新たな挑戦」に取り組む。

経営目標	「健全な財務体質の維持」と「収益基盤の拡大」の両立		
基本方針の維持	トレーディングの重視	効率経営の推進	お取引先との共生・発展
経営基盤の充実	投資リスク管理の高度化	ガバナンスの強化	グローバル人材の育成
新たな挑戦	グローバルバリューチェーンの構築	新技術・新商品の開拓	積極的な事業投資・M&A、資本市場からの調達

ありたい姿 (Aspiration)	「事業創造にチャレンジし続ける企業」	
	【定量目標】	連結経常利益 250～300億円
		連結当期純利益 150億円 (ROE 15%)
	【定性目標】	自己資本 1,000億円超 (ネットDER 1.0倍台維持)
利益水準に見合った配当の実施		